

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生は、3年生までに観察や実験の視点を抑えることができたため、「身近なしぜんかんさつ」の単元は目標値に近づくことができた。
- ・5年生は、3,4年生での植物に関する関心が高く、「1年間の植物の成長」の単元は目標値を超えた。
- ・6年生は、教科担任制を生かした授業改善を行い系統的な反復学習を行ったことで、目標値との差が前年度に比べて縮まった。

(2) 課題

- ・知識の定着が難しい。どの単元も系統性を意識し、前学年または前単元との関わりを意識した授業を考える。
- ・前学年または前単元の学習を繰り返し復習を交えることが今後必要である。
- ・生活に関連付けて考えることができていないため、普段の生活から関連させて考えさせる活動を取り入れる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	-9.4		
第5学年	-10.3	-7.1 (第4学年時)	
第6学年	-5.5	-7.2 (第5学年時)	+3.1 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも低い正答率である。「太陽と地面のようす」はよく理解できているが、植物やこん虫の育ち方、音の性質、ものの重さに課題がある。	どの単元も目標値よりもやや低い正答率である。特に、じしゃくの性質に課題がある。	目標値よりも低い正答率である。前年度同様、観察・実験に対して興味・関心をもって取り組む児童が多いが、実験で分かったことを記述することに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも低い正答率である。基礎のことは理解できている単元もあるが、全体的に基礎を活用した応用ができていないことが課題である。	目標値よりも低い正答率である。特に、昨年度と同様、5年「自然の中の水」、6年「ふりこのきまり」が今年度も課題である。	6年生は目標値とほぼ同等くらいだが、5年生は目標値から大きく下がった。観察・実験に対して興味・関心をもって取り組む児童が多いが、実験で分かったことを記述することに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- それぞれの学習単元で押さえるべき知識については、調べる活動を通して、定着を図る。 - 観察、実験などに関する技能を身に付けさせるために、事前に視点を提示し、何度も試せる場をつくる。	自然の事物・現象から見出した問題について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を考えさせる発問を行う。	- 問題解決の過程の中で、「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を追究していくという理科の学習の仕方を身に付けさせる。 - 実生活と関連付け、疑問をもち、知りたいという意欲に結び付ける。 - 植物や昆虫を育てる等の体験活動を充実させる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 知識・技能の定着を図るために、毎時間前時の復習を十分に行う。また、単元の関連、系統性をその都度指導し、つながりを意識させる。 - ICTを活用して、観察・実験を繰り返し確認してより確実な答えを出せていたり、友達の考えを共有して自ら学習課題を解決したりして、理解を深めさせる。	生活との関連を意識させながら考えさせるために、児童同士の交流を行い、深めさせる場の設定をする。	- 実験は意欲的に取り組むため、その後の考察のまとめ方を丁寧に指導する。また、考察を上手にまとめられている児童のノートを理科室に掲示し、よさを理解させる。 - 自分事として考えられるように、実生活との関連を重視し、問題を取り上げ、知りたい・調べたいという意欲に結び付け、様々な事象を自分事として考えられるようにする。